大学院　教育評価アンケート結果

2022年度　博士後期課程【看護学専攻】

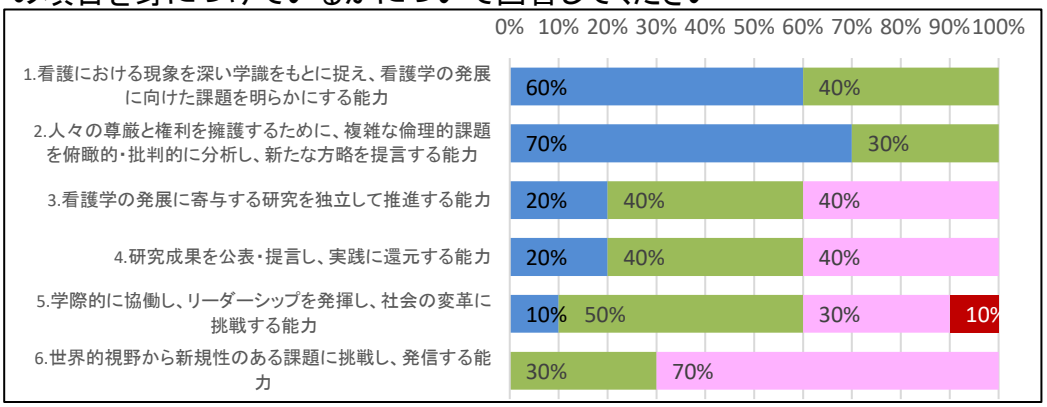
2022年度の博士後期課程（看護学専攻）の在学生（1～3年生）を対象とした教育評価アンケートは、前年度に引き続きWeb調査で行いました。以下、在学生の調査結果についてご報告いたします。

■強くそう思う　■そう思う　■どちらともいえない　■そうは思わない　■全くそうは思わない　■無回答

Ⅰ．現時点であなたが以下の項目を身につけているかについて回答してください

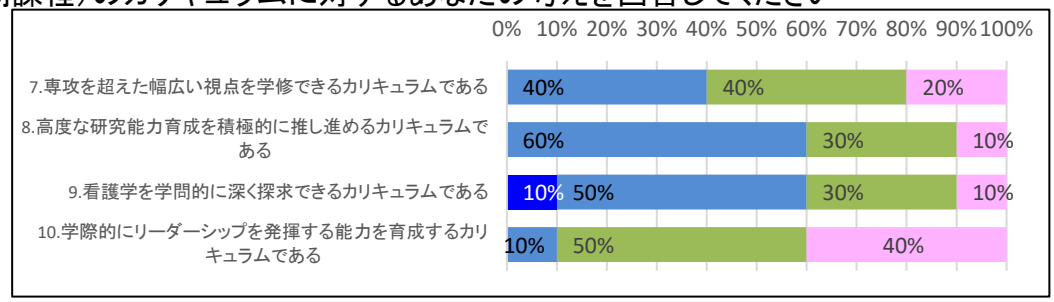
n＝10

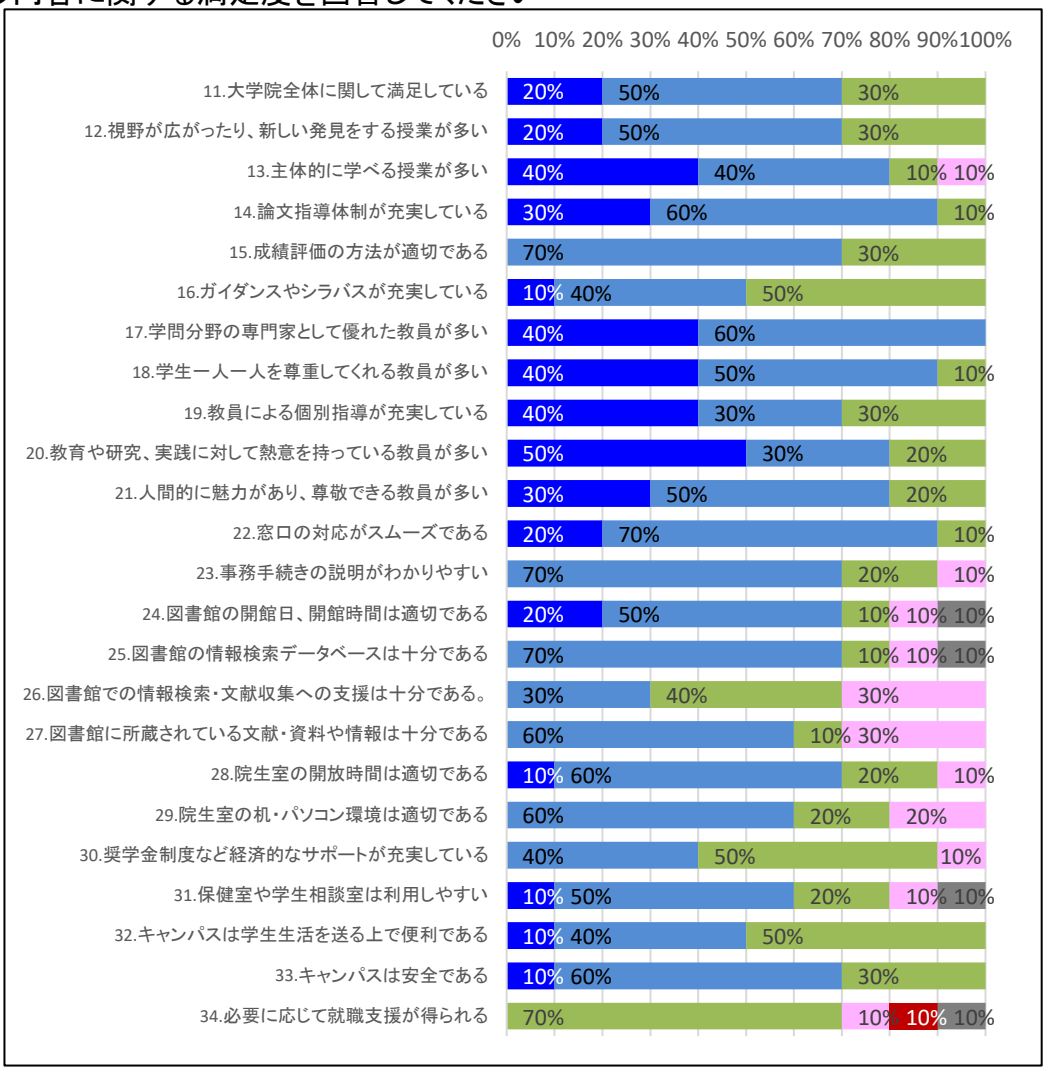
6つの項目は全て、本学ディプロマポリシーに定める能力に対応しています。現時点で身につけている能力として、在学生の3割以上が「強くそう思う」「そう思う」と回答した項目は、6項目のうち2項目でした。



Ⅱ．本学大学院（博士後期課程）のカリキュラムに対するあなたの考えを回答してください

博士後期課程（看護学専攻）のカリキュラムの受け止めについて、6割以上の在学生が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、4項目のうち2項目でした。
高度な研究能力育成を積極的に推し進めることができ、看護学を学問的に深く探求できるカリキュラムであると評価されています。



Ⅲ．大学院における以下の内容に関する満足度を回答してください

本学大学院への満足度として、博士後期課程（看護学専攻）の在学生の7割以上が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、24項目のうち15項目でした。
授業関連として、主体的に学べる授業、視野を広げ、新しい発見をする授業、主体的に学べる授業が多いこと、論文指導体制の充実度、成績評価の適切性などが高く評価されています。
教員に関連することとして、学問分野の専門家として優れた教員や、学生を尊重する教員、教育や研究、実践に対して熱意を持った教員、人間的な魅力のある尊敬できる教員が多いことが評価されています。併せて、教員による個別指導の充実さも高く評価されています。
その他、事務手続き（窓口対応含む）のスムーズさ、図書館の支援（開館日時含む）、キャンパスの安全性が高く評価されています。